

臨床検査科

眞能正幸

1. 概況

臨床検査部門は『精度保証されたデータを迅速に提供すること』を使命とし、採血から結果報告までが臨床検査の精度管理の方針のもと、臨床検査の国際規格である ISO15189 取得を目指してきた。当センター臨床検査科は、平成 26 年 11 月 13 日国内第 86 番目の認定施設として登録された。



二交替勤務，輸血管理当直を早期より導入し休日・夜間を含む 24 時間の緊急検査，輸血管理に対応している。スタッフは医師 3 名と臨床検査技師 40 名、検査助手 3 名で運営している。

・各部門について

外来検査部門：6 個のブースと別に車椅子用ブースを設け、外来での採血を実施している。採尿室に隣接した外来検査室で検尿、便潜血、穿刺液（髄液、胸腹水等）の検査、原虫や虫卵検出等を中心に検査している。入院患者の翌日採血予定分の採血管を前日に準備し、各病棟へ搬送している。

総合検査部門：血液をはじめとした体液中の成分を各分析機で検査している。緊急検査は 30 分、至急検査や診察前検査は 60 分を目途に診療科に報告している。あわせて治験検体の処理や保管も実施している。また、輸血血液製剤の一元化管理を行い、輸血療法委員会へ情報を提供し血液製剤の有効利用に努めている。

微生物検査部門：臨床検体からの通常の細菌検査業務の他にインフルエンザウイルスなどの迅速抗原検査、結核菌、HCV、HBV および HIV のリアルタイム PCR 法による高感度測定や、遺伝子解析検査として、HIV 薬剤耐性遺伝子解析や MRSA の遺伝子型（POT 法）の検出をしている。これらの情報は耐性菌週報として院内に発信するとともに、ICT 会議や ICT ラウンド資料として院内感染防止に貢献している。

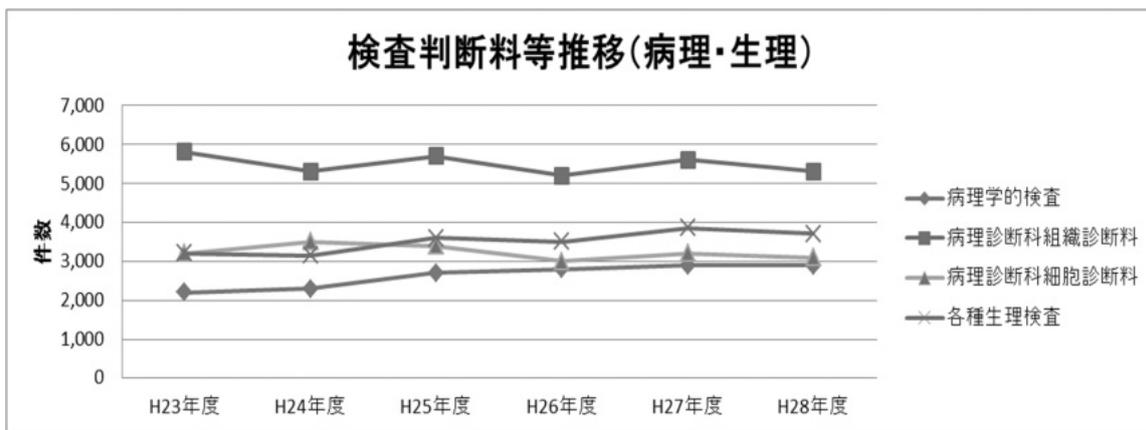
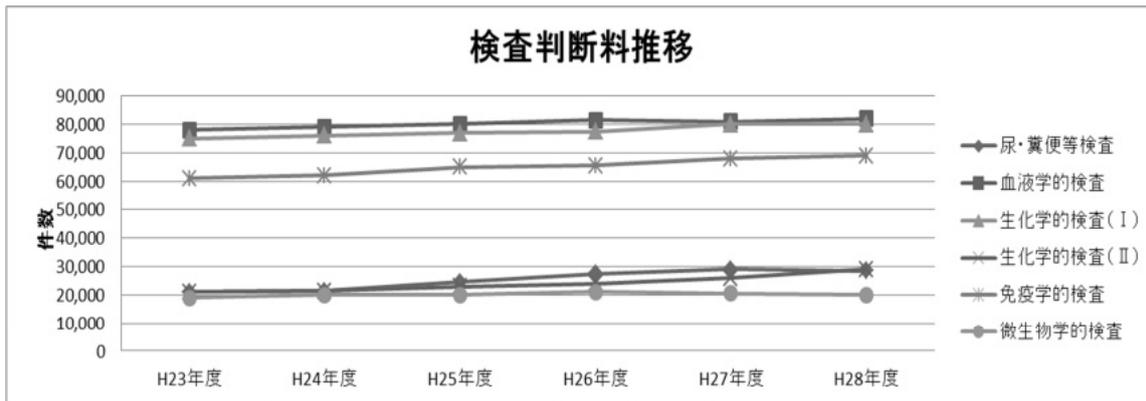
病理検査部門：術中の迅速病理診断や迅速細胞診、100 種以上の抗体を備えた免疫染色により症例に応じた治療法の選択に貢献している。高度な専門的病理診断に対応するため 4 大学より病理専門医を招聘している。

生理検査部門：患者さんから直接生体信号を調べる部門である。循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系や聴覚系等の分野の検査を実施し、またエコーセンターとして各診療科の超音波検査の受付を一括して行っている。

2. 活動報告

各種の外部精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、大阪府医師会）に参加している。一例として日本医師会主催の臨床検査精度管理調査の成績（過去 6 年間）を示す。

| | 23 年度 | 24 年度 | 25 年度 | 26 年度 | 27 年度 | 28 年度 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 総合評価点 | 99.8 | 99.8 | 99.7 | 98.8 | 98.1 | 98.3 |



臨床検査科として、ISO15189 認定 (RML00860)、日本臨床検査医学会 (No.101)、日本輸血・細胞治療学会 (No.185)、日本臨床細胞学会 (No.466) などの施設認定、さらに日本臨床衛生検査技師会の精度保証施設認証 (No.140137) 承認を取得している。また、細胞検査士 (4名)、超音波検査士 (6名)、認定輸血検査技師 (4名)、糖尿病療養指導士 (1名) の認定技師が在籍している。

3. 今後の課題と目標

世代交代の波に向けて、人材育成が急務であり、認定資格取得を含め学術的・技術的向上に努めている。一方では、各種臨床病理カンファレンス (乳腺腫瘍、呼吸器腫瘍、皮膚科疾患、肝生検、肝胆膵腫瘍、骨軟部腫瘍等) を定期的実施して病理診断や臨床診断・治療の質の向上に努めている。さらには、職員研修部との共催で月1回のCPCを実施し、若手臨床医の教育にも貢献している。

チーム医療の推進に積極的に関わり、患者さんへのSMBG機器の仕様説明や、糖尿病教室、NST (栄養サポートチーム)、肝臓病教室、ICT (感染対策チーム) での患者指導・情報提供・ラウンド等に参加、さらに、今後はISO15189認定施設としてマネジメントシステムに沿って運営することで近畿を代表する臨床検査科として施設診療機能、治験業務の質向上に貢献する。

(文責 栢山 武寛・眞能 正幸)

【2016年度 研究発表業績】

A-0

Fukuda Y, Omiya H, Takami K, Mori K, Kodama Y, Mano M, Nomura Y, Akiba J, Yano H, Nakashima O, Ogawara M, Mita E, Nakamori S, Sekimoto M: Malignant hepatic epithelioid angiomyolipoma with recurrence in the lung 7 years after hepatectomy: a case report and literature review. 「Surgical Case Report」 2(1)、2016年4月2日

Umehara T, Okita Y, Nonaka M, Kanemura Y, Kodama Y, Mano M, Nakajima S, Fujinaka T : A case of pilocytic astrocytoma requiring tumor resection during pregnancy. 「Mol Clin Oncol.」 4(4) : 567-570、2016年4月 (Published online 2016年2月9日)

A-3

村上弘大、大谷陽子、木下竜弥、田中希世、八十島宏行、水谷麻紀子、中森正二、関本貢嗣、森 清、眞能正幸、増田慎三 : 腹腔鏡下アプローチにより局所コントロールを試みた乳癌副腎転移の1例「癌と化学療法」 43(12) : P.2035-2037、2016年12月

北風雅敏、平尾素宏、宮本敦史、浜川卓也、山本和義、西川和宏、前田 栄、植村 守、三宅正和、濱直樹、宮崎道彦、池田正孝、中森正二、清川博貴、眞能正幸、関本貢嗣 : 胃 GIST 肝転移再発に対して外科的切除を含む集学的治療で長期生存が得られている一例「癌と化学療法」 43(12) : P.2237 - 2239、癌と化学療法社、2016年12月

B-4

大宮英泰、高見康二、関本貢嗣、中森正二、平尾素宏、池田正孝、宮崎道彦、宮本敦史、増田慎三、西川和宏、濱直樹、三宅正和、山本和義、植村 守、水谷麻紀子、八十島宏行、前田 栄、大谷陽子、栗山啓子、眞能正幸 : 術前診断未確定肺結節性病変に対する術中穿刺吸引細胞診の到達法別診断精度。第16回日本外科学会定期学術集会、大阪2016年4月14日

山本司郎、大原寛明、村上泰隆、玄 富翰、小村江美、永野恵子、森 清、藤中俊之、橋川一雄 : 脳血栓回収術により回収した塞栓子の病理学的検討。第41回日本脳卒中学会総会、札幌、2016年4月15日

大宮英泰、高見康二、中森正二、関本貢嗣、栗山啓子、眞能正幸 : cI期非小細胞肺癌における術中肉眼的胸膜浸潤診断に関する検討。第33回日本呼吸器外科学会総会、京都、2016年5月12日

西岡陽介、村尾昌輝、眞能正幸、武田麻衣子、大林千穂、武島幸男、竹田雅司 : 精巣鞘膜に発生した中皮腫の一例。第105回日本病理学会総会、仙台、2016年5月13日

小西英一、中嶋安彬、眞能正幸、富田裕彦、山崎早苗、柳澤昭夫 : 長管骨における低悪性度通常型軟骨肉腫と単発性内軟骨種の組織学的鑑別点。第105回日本病理学会総会、仙台、2016年5月13日

森 清、清川博貴、児玉良典、眞能正幸 : 非浸潤性乳管癌症例と乳管内成分優位な浸潤性乳

管癌症例の組織形態学的比較。第 105 回日本病理学会総会、仙台、2016 年 5 月 14 日

大原寛明、山本司郎、森 清、村上泰隆、三浦弘之、玄 富翰、北林克清、小村江美、永野恵子、橋川一雄：血管内治療により塞栓子を回収し得た感染性心内膜炎の 1 例。第 35 回日本脳神経超音波学会総会、横浜、2016 年 6 月 4 日

水谷麻紀子、増田慎三、八十島宏行、大谷陽子、田中希世、苅田真子、中森正二、森 清、児玉良典、眞能正幸：乳癌術後局所・領域再発に対する Salvage 手術後の経過および薬物療法についての検討。第 24 回日本乳癌学会学術総会、東京、2016 年 6 月 16 日

大谷陽子、増田慎三、水谷麻紀子、八十島宏行、森 清、田中希世、眞能正幸：トラスツズマブエムタンシン (T-M1) の治療効果と血清 HER2 および HER2 遺伝子増幅との関連。第 24 回日本乳癌学会学術総会、東京、2016 年 6 月 16 日

山本司郎、村上泰隆、佐木山裕史、玄 富翰、永野恵子、森 清、藤中俊之、橋川一雄：脳血栓回収術で得られた塞栓子病理所見と臨床的特徴との関連。第 19 回日本塞栓子検出と治療学会 (Embolus 学会)、神戸、2016 年 10 月 14 日

高見康二、大宮英泰、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原正光、栗山啓子、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：20mm 以下の肺癌に対する積極的手術の適応方針と評価。第 57 回日本肺癌学会学術集会、福岡、2016 年 12 月 19 日

大宮英泰、高見康二、中森正二、関本貢嗣、栗山啓子、眞能正幸：すりガラス影優位型・臨床病期 I 期肺腺癌における胸膜浸潤に関する検討。第 57 回日本肺癌学会学術集会、福岡、2016 年 12 月 19 日

平尾素宏、山田拓哉、西川和宏、浜川卓也、三田英治、池田正孝、宮本敦史、濱 直樹、三宅正和、植村 守、前田 栄、中森正二、関本貢嗣、眞能正幸：当院における胃癌 ESD 偶発穿孔症例 22 例の検討。第 89 回日本胃癌学会総会、広島、2017 年 3 月 8 日

B-6

眞能正幸：浸潤性乳管癌組織における Ki-67 による増殖能の評価：画像解析ソフトを利用した Ki-67 index の分析法。第 4 回病理診断セミナー、大阪、2016 年 4 月 3 日

児玉良典、伊熊素子、森 清、清川博貴、眞能正幸：脳生検で確定診断できた輸入真菌症の 1 例。第 13 回日本神経病理学会近畿地方会、京都、2016 年 7 月 7 日

八十島宏行、水谷麻紀子、大谷陽子、森川希実、眞能正幸、森 清、田中英一、井上敦夫、四方文子、西川敦世、庄野裕志、垣内万依、増田慎三：初期治療方針決定における乳腺カンファレンスの精度管理。第 14 回日本乳癌学会近畿地方会、大阪、2016 年 12 月 3 日

小林佑佳、小澤健太郎、森 清、爲政大幾：右尾翼部に生じた皮膚限局性結節性アミロイドーシスの 1 例。第 308 回大阪ひふ勉強会、大阪、2016 年 12 月 8 日

清川博貴、森 清、眞能正幸：脳病変の一例。第 76 回日本病理学会近畿支部学術集会、大阪、2017 年 2 月 4 日

高見康二、大宮英泰、安藤性實、木村 剛、宮本 智、小河原光正、栗山啓子、加賀野井朱里、森 清、眞能正幸：PD-1 阻害剤が奏功した肺腺癌術後多発肺転移の 1 例。第 105 回日本肺癌学会関西支部学術集会、大阪、2017 年 2 月 25 日